

## 関東の天理教—その2—

前号で関東の天理教伝道を概観し、東京から関東一円に広まったことおよび日光系統、嶽東系統の伝道を述べた。今回はそこで触れられなかったその他の関東伝道について考えたい。

最初に関東各県ごとの教会数と人口比教会数に触れる。次の表をご覧ください。

	人口 (万人)	教会数	10万人あたりの教会数
東 京	1,320	1,152	8.73
神 奈 川	906	463	5.11
埼 玉	721	582	8.07
千 葉	621	359	5.78
群 馬	200	215	10.75
栃 木	200	158	7.9
茨 城	296	201	6.79

(人口は2011年10月総務省統計局、  
教会数は立教175年11月号『みちのとも』による)

東京、埼玉、神奈川、千葉にはかなりの教会がある。これらの都県は人口が多いから教会数も多い。ところが人口比教会数を見ると神奈川、千葉、茨城は少ない。これは東京への人口集中が東京の周辺にまで広がり、近年人口が急増したためである。天理教の教会はそれ以前に設立されたのが大半で、人口急増期にはそれほど増えていない。したがって、30年程前の10万人あたりの教会数はもう少し多かった筈である。

栃木は大教会が4カ所もあるのに教会数は関東で最も少ない。大教会数の割に教会数が少ないのは高知県や滋賀県と似ており、大教会などが布教拠点になって県外へ伸展したためであろう。

前号では主に東京から次第に関東一円に伸びたことを書いたが、その伝道線が関東以遠、つまり関東に接している地域にまで広がったかどうかを考える。関東の隣接県は北から福島、新潟、長野、山梨、静岡である。この地域への伝道がどこから行われたのか各県ごとにみていこう。

福島県に最も多く伝道したのは山名系統である。明治20年代、山名大教会が組織的に行った東北への遠隔地伝道において最初に布教拠点を置いたのが福島県だった。本連載ではいずれ遠隔地伝道に触れることになるので今回はここまでにする。福島で次に多いのは栃木県日光系統の伝道である。他には新潟県の北洋、湖東、新潟の大教会の伝道もある。

新潟県では湖東、新潟、北洋、鹿島の各大教会が40から50余の教会を有し、甲府大教会がそれに続く。関東からの伝道はほとんどない。

長野県は静岡、山梨両県を経た山名系統の伝道が多く、他に日光、秩父の大教会からと滋賀県、岐阜県を経た甲賀、湖東、岐美の伝道、また若干だが静岡県嶽東系統もある。

山梨県には山名系統が最も多く入り、甲府大教会ができた。佐野原大教会からの伝道も含め大半が静岡県からの伝道である。

静岡県は本連載第8回に述べた通り、大阪の信仰が伝わり、それを端緒に始まった山名大教会系統が大半を占める。東と錦江の大教会もいくらかの教会を有している。

以上のように関東に隣接する5県への伝道は関東からの伝道ではなく、それ以外から入ったものが多い。関東からの伝道と

言えるのは栃木県日光系統から福島と長野への伝道、また埼玉の秩父大教会から長野へ、東京の東と錦江の静岡伝道であるが数の上からは多くない。

ここで東京の大教会および東京の大教会から分離した大教会が関東にどの程度の教会を有しているかの割合を以下に示す。

(東大教会系統)

東大教会－52.5%      日本橋大教会－85.3%  
牛込大教会－96%      深川大教会－87%  
浅草大教会－90%      阪東大教会－90%  
立野堀大教会－98.7%

(東本大教会系統)

東本大教会－90.2%      本芝大教会－74%  
本保大教会－86%      本荏大教会－90.2%  
本理世大教会－93.2%

(本愛大教会は愛知県なので除く)

(麴町大教会系統)

麴町大教会－90.8%      錦江大教会－60.3%  
大森町大教会－93.7%

(その他の系統)

都大教会－68%      中央大教会－72%  
東中央大教会－64.6%      (以上筆者の調査)

こうして見てくると、東京の有力教会は関東一円へは活発な伝道活動を繰り広げたが、その他の地域へはさほど伝わっていないことが分かる。しかも周辺地域すなわち福島、新潟、長野、山梨、静岡への伝道はあまりなされなかった。

なぜであろう。筆者の推測を交えて考えてみる。

ひとつには、「関東」は一個の固まりであり、隣接する周辺地域は自然地理や人文地理の観点では別個の異なった地域なのであろう。福島や新潟、長野は遠隔地でもあり東京の各教会から伝道するにはもう一步踏み込まねばならなかったのではないか。

北関東からも東京は近くない。しかし関東圏という意識が存在する。経済的にも関係があった。福島や長野などとは全く違う意識ではないか。東京から天理教が広がっていく時、自然な成り行きで関東一円へは広まったが、それ以遠の隣接地域へは自然に伸びることはなかったのではないか。

関東の道路を考えてみよう。ほとんどの地点からほぼ真っ直ぐ東京へ向かっている。東京から見れば放射状に道が伸びている。関東のある地点と東京では最短距離の道を辿ればいい。一方、東京以外の関東の2つの地点の通行は便利とは言えない。関東は一つの固まりだと言ったが、東京という巨大都市を中心にした固まりであり、これは関東の隣接地を含んでいない。

東京の有力教会を元とする伝道線が遠方へ向かおうとした時、関東の隣接地域ではなく別の場所を選んだのではないか。例えば東本大教会の名古屋伝道が本愛大教会となったように。また東大教会の愛媛伝道のように。

関東地方における天理教伝道においても関東は一つの固まりという人間の意識が作用しているように思える。

(今号の記述は関東の実状を筆者流に見たもので、その意味をもっと深く分析することが必要となろう。今後の課題としたい。)